

## ◆ 平成27年度活動報告シート ◆

団体名：NPO法人 環境サポート埼玉

代表者：代表理事 小室 大

URL :

### 1. 活動が必要とされた状況

環境問題は、子どもたちにとって自分たちの暮らしに結び付いた問題であり、日常的なごく普通の行動の結果であると知ってもらうこと、また、地域の水辺に親しむ中で体験的に環境の大切さを学習すること、これらの機会を提供する必要を感じ、計画した。



### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

実施時期 平成27年8月20日（木）～21日（金）

参加人数 坂戸市内小学校など4～6年生 13人参加

活動内容

①高麗川の水質調査（新戸口橋上流地域）：高麗川の水を採取し、パックテスト（化学的酸素要求量）により水質状況を調査するとともに、持参した家庭生活排水

のパックテストを行い、河川などに与える影響を学習。

②高麗川（新戸口橋周辺地域、橋下上流100m以内）に棲む小魚や底生生物の調査：調査地点での魚類、底生生物を採捕し、その生息状況を調査。

③新戸口橋周辺のごみ拾い。

④体験学習の成果を夏休みの自由研究としてまとめる。



### 3. 活動の成果

健康を害する子どももなく、無事、計画どおり実施することができ、第7回事業は、所期の成果を収めたと評価している。子どもたちの中にはリピーターもおり、全員生き生きとしており、学習態度も活発、熱心であった。参加者へのアンケートでも環境への関心を深めた良い結果が示された。参加型の体験学習事業は教育的要素が強いことから、今後も継続して実施することにより、より多くの成果が得られるものとする。なお、子どもたちの健康管理に留意するため、医療系大学の教授・学生がボランティアで参加してくれた。

### 4. 今後に残された課題

①天候の影響を受けやすい事業であることから、計画どおりできない場合の代替的な活動内容を検討する必要がある。事業実施の数日前に大雨があったため、川の水位が例年より若干上がり、魚を獲る範囲が限られた。

②子どもたちの考える力、達成感、満足感がさらに高まるよう、引き続き検討を加え、実施面で一層創意工夫すること。また、参加した子どもたちが、今回を契機に、理科の学習や自然環境に興味を持ち、環境問題と生活との関わりに変化がでているかを何らかの方法で把握できればさらによい。

③事業実施の自主財源確保に努め、継続性を高めていく必要がある。